

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「やさしい心 つよい体」を校訓とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざして、基礎基本を重視しつつ個性と創造性を伸張し、生きる力と人間性豊かな児童の育成を図る。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の育成

- ・ 主体的・対話的で深い学びをめざし、学び合いのある学習指導を工夫し、思考力・表現力・判断力を高める。
- ・ 教科・道徳において、一人一人が自分の考えをもち、表現することができるように、発達段階に応じた指導をスパイラルに行い、主体的に学ぶ意欲を高める。
- ・ タブレット等、ICT機器を有効に活用した授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を進めることで、基礎基本の充実を図り、できる喜びを実感できるようにする。
- ・ 教科・道徳・行事等のつながりを意識した効果的な指導の工夫をし、生きて働く力を高める。
- ・ 少人数指導やTT指導の指導方法を工夫し、個に応じた学習指導を図る。

イ 健康な体と心豊かな児童の育成

- ・ 主体的に感染症予防に努め、安全安心に学校生活を送ることのできる環境づくりを行う。
- ・ さまざまな交流活動の場を設定し、ふれあい、学び合う活動を通し、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感の醸成に努める。
- ・ 行事・異学年交流・体験活動と結びついた効果的な道徳教育を推進し、心豊かな児童の育成に努める。
- ・ 「宝っ子タイム」の充実を図り、互いに認め合える雰囲気と自己肯定感の醸成に努める。
- ・ 「宝っ子6つの約束」の実現を通し規範意識を高め、互いに居心地のよい学校づくりに努める。
- ・ 読書や合唱に親しむことのできる環境を整え、児童の豊かな心の醸成に努める。
- ・ 人権教育や特別支援教育の推進に努め、一人一人の特性を大切にしたりよりよい集団づくりを通して、互いに認め合い、思いやりのある児童を育てる。

ウ 家庭・地域の教育力の活用

- ・ 学校支援型コミュニティスクールの充実をめざし、地域と協働して児童の育成を図る。
- ・ 保護者・地域ボランティアを授業などに積極的に活用し、学校理解を図るとともに、家庭・地域との連携を深める。
- ・ 伝統工芸「七宝焼」や地域が輩出した歴史上の人物との関わりを核に、地域との交流を広げ、郷土愛を高める。

エ 持続可能な教育活動のために

- ・ 質の高い授業や個に応じた指導を充実させるために、学校全体で組織的に教員の担うべき業務の適正化を促進する。
- ・ 毎週水曜日を一斉退校日とし、心身のリフレッシュを図るとともに、見通しをもった仕事配分を行う意識を高める。
- ・ ワークライフバランスを大切にしたり個々の職員の能力開発に努め、協働的で充実感のある雰囲気の醸成に努める。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和5年12月（児童・保護者・教職員）

(2) 調査項目 別紙アンケート結果参照

(3) 調査対象（有効回答者数／対象者数）

- ・ 児童 133名／全135名
- ・ 教職員 16名／全16名
- ・ 保護者 129名／全135名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童、保護者、教職員の総括的考察】

- (1) 全体を通しての自己評価は、評価項目16項目中13項目がA評価であった。児童、保護者、教職員のそれぞれの達成度を昨年度と比べると、16項目中児童は10項目、保護者は11項目、教職員は13項目で同じ、もしくは高くなった。達成度が高かった項目については、引き続き工夫しながら、取り組みを進めていきたい。
- (2) 児童において達成度が最も低かった項目は、「豊かな心を育む読書指導」「地域の教育力を生かした教育活動の推進」であった。今年度の活動を振り返り、改善点を確認しながら教育活動を進めていきたい。
- (3) 保護者において達成度が最も低かった項目は、「話し合い活動を取り入れた学習指導」であった。宝っ子タイムでのソーシャルスキルトレーニングを生かし、学び合いのある学習指導を工夫していきたい。
- (4) 教職員において達成度が最も低かった項目は、「話し合い活動を取り入れた学習指導」「豊かな心を育む読書指導」「地域の教育力を生かした教育活動の推進」であった。職員間で意思疎通・共通理解をはかり、計画的に教育活動に取り組んでいきたい。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 全体を通して評価がよかったことは、今年度取り組んだ教育活動が評価されたと考える。しかし、達成度が低かった項目もいくつかあるので、今年度の活動を振り返り、次年度に向けて、手立てを考えていきたい。
- (2) 児童・保護者・教職員の達成度が上がった項目数は昨年度よりもすべて増加した。今年度の教育活動が児童に受け入れられ、児童の成長につながり、実感として保護者や教職員に認められたと考えられる。次年度も、児童が意欲をもって取り組める教育活動を進めていきたい。

《課題》

- (1) 「話し合い活動を取り入れた学習指導」では、全体の達成度が3.4と低かった。中でも保護者の達成度が3.2と低かった。
- (2) 「豊かな心を育む読書指導」では、全体の達成度が3.4と低かった。中でも児童の達成度が3.2と低かった。
- (3) 「地域の教育力を生かした教育活動の推進」では、全体の達成度が3.4と低かった。中でも児童の達成度が3.2と低かった。

6 改善策

- (1) 「話し合い活動を取り入れた学習指導」について
 - ・ 他校の学校訪問や研究発表会への参加、校内現職教育の推進により、職員の指導スキルを高める。
 - ・ タブレット端末などを活用しながら、児童がお互いに学び合える学習を工夫していく。
- (2) 「豊かな心を育む読書指導」について
 - ・ 担任と図書支援員が連携して、ブックトークや読み聞かせなど、児童が読書に興味関心をもてるような工夫をしていく。
 - ・ 図書室や絵本の広場の整備や蔵書の管理・増強に努める。
 - ・ 委員会活動を工夫し、児童が主体的に読書を楽しめるような企画運営をしていく。
- (3) 「地域の教育力を生かした教育活動の推進」について
 - ・ 学校と学校運営協議会が連携し、地域の教育力を生かした教育活動を考えていく。
 - ・ 「七宝焼き」や「おまつの方」の学習では、地域の方を講師として学習を進めている本校の特色ある教育活動である。郷土愛を育むことができるように学習計画を工夫していきたい。